

2025年度 事業計画（案）

A 職 員 人 事

1 2025年度教職員名簿

◇校 長（1名）（兼務健康管理医1名） 河田 了					
◇常務理事（1名） 豊 福 淳 之					
◇事 務 所 事務局長（1名） 磯 田 典 子					
事務職員（若干名）					
事務課長	衣 川 美 佳	学生・施設管理担当	西 村 梢		
教務担当	生 沢 好	学生・庶務担当	川 上 夏 菜		
教務担当	山 内 奈津子	経理担当	小 泉 恵		
◇看 護 学 科 副校長（1名） 谷本 千亜紀					
教務部長（1名） 谷本 千亜紀（兼務）					
実習調整者1名／専任教員8名以上					
<三 年 課 程>					
教務主任	姫 田 真 弓	教 員	岡 田 萌 美	実習調整者	大 井 ゆかり
教 員	鍋 島 純 子	教 員	橋 本 千 晶		
教 員	長 岡 宏 子	教 員	加 茂 清 美		
教 員	川 勝 真由美	教 員	北 澤 小夕里		
教 員	大 瀧 奈 緒	教 員			
◇臨床検査学科・臨床工学技士専攻科 副校長（1名）					
◇臨床検査学科・臨床工学技士専攻科 教務部長（1名） 泉 田 洋 志					
<第一臨床検査学科>		<第二臨床検査学科>		<臨床工学技士専攻科>	
教務主任 （1名）	宮 井 優	教務主任 （1名）	五十川 團 哉	教務主任 （1名）	泉 田 洋 志 （兼務）
（教員は2学科を兼務）（7名以上）				（3名以上）	
教 員	林 敬 子	教 員		教 員	飯 田 安 彦
教 員	小 西 靖 志	教 員		教 員	古 谷 仁 志
教 員	多 田 俊 介	教 員		教 員	和 泉 大 輝
教 員	篠 田 英 邦				
教 員	藤 田 拓 司				
教 員					

2 各種委員会担当者一覧

委員会名	看護学科 三年課程	臨床検査学科	臨床工学技士 専攻科	事務所
防火委員会	姫 田	篠 田		生沢・小泉
新聞委員会	大 瀧	藤 田	飯 田	*磯 田 川 上
学校祭準備委員会	姫 田	*古 谷	和 泉	山 内
体育祭委員会	*大 井	多 田		西 村
まちの保健室委員会	加 茂	*林		衣 川

(注) *印は委員 長

B 学生在籍状況及び担任一覧

区 分	学年/期生	在籍数	教室番号	担 任	
看護学科三年課程	1年/47期	34	302	橋 本	加茂・長岡
	2年/46期	37	305	川 勝	姫田・岡田
	3年/45期	43	303	大 瀧	北澤・鍋島
	計	114			
第一臨床検査学科	1年/53期	17	101	林	
	2年/52期	26	102	多 田	
	3年/51期	31	103	古 谷	
	計	74			
第二臨床検査学科	1年/53期	11	101	五十川	
	2年/52期	13	102	五十川	
	3年/51期	11	201	古 谷	
	4年/50期	14	202	小 西	
	計	49			
臨床工学技士専攻科	28期	22	203	飯 田	
合 計					

C 事業計画目標

学校経営の環境は、18歳人口の減少や大学志向などにより受験生確保が厳しく、入学生の定員割れが著しい。地方の大学においても定員割れがでてきており、益々厳しい状況である。

令和6年度学校基本調査より、高等教育機関（大学・短期大学及び専門学校等）への進学率は87.3%で、前年度より3.3ポイント上昇し、過去最高。大学・短期大学進学率は62.3%で、前年度より1.2ポイント上昇し、過去最高となっている。専門学校進学率は24.0%で、前年度より2.1ポイント上昇し、過去最高だった。専門学校進学率は減少が続いていたが、令和5年度は上昇した。

2025年度の学校目標を以下の通りとした。

目 標：「実践力のある医療人の育成」

医療系大学の台頭、18歳人口の減少など学生募集状況は非常に厳しい中ではあるが、本校に入学し卒業していく学生を実践力のある医療人として育成することを目指したいと考えている。

本校は、学校案内やホームページに「本校だけの6つの特徴」を示している。1. プロの講師陣から**現場のリアル**を学べる。2. 1年で臨床工学技士との**ダブルライセンス取得**。3. 夕方から学べる**夜間コース設置**(臨床検査学科)。4. **3年連続全国平均以上**の国家試験合格率達成。5. つねに**就職率100%達成**。6. 経済的理由で修学継続をあきらめない**手厚い支援**。以上の点に力を入れながら学生募集につなげていきたい。

学生たちは自分で掲げた自己目標の達成を目指しているが、学ぶ楽しさが実感できるよう、個々に応じた学習支援を実施し、進級率・卒業率をアップさせて国家試験合格に導きたい。卒業後は実践力のある医療人であると言われるような人材に育成していきたい。

1. 基礎学力定着

基礎学力を定着させ、学習への意欲を引き出す

①学生の学習習慣の定着

現在の学生は学習習慣がきちんと定着していない者が多く、入学後、学習習慣の定着を最初の目標とする。臨床検査学科で取り組んでいる月曜テスト(週1回月曜日に小テストを実施)や各学科で取り組んでいる小集団指導などである。

②基礎学力向上のための取組み

現在の高校での理科系の授業は、基本的内容の授業に留まっていることが多く、本校に入学して来る学生のほとんどが、理系分野の基礎学力が低下している傾向にある。しかし、看護師、臨床検査技師になるためには生物や化学の基礎学力は必須であるため、入学初めの時期に全学科学生対象にリメディアル教育(補習授業)を実施していく。

引き続き看護学科は、1年生に記憶アプリを導入し、暗記特化型の学習方法を実施していきたい。また、入学までに基礎学力の向上と、入学後の学習へスムーズにつなげる事を目的に、入学前学習(メヂカルフレンド社)を紹介し、入学前の事前学習をよりきめ細やかに行えるよう取り組んでいく。臨床工学技士専攻の入学生においても、専門基礎科目の内容をしっかりと固めてから専門知識取得に取り組んでいく。

2. チーム医療への取組

①チーム医療の取組として、看護学科教員が体位変換・車イス、ベッド移乗の技術演習を臨床検査

学科の学生に行い、臨床検査学科教員が心電図検査・検体検査についての講義・実習を看護学科学生に行い、同様に臨床工学技士専攻科の学生に看護学科及び検査学科の教員が授業し、各学科の教員が他学科の授業を行いチーム医療への意識を高める。

また「チーム医療演習」という科目で、看護学科学生と第一臨床検査学科学生合同で、また看護学科の学生と臨床工学技士専攻科学生合同の授業を計画し実行したい。

②サークル活動支援

各学科の垣根を越えて、放課後等の時間を利用してサークル活動を行うことを、支援している。

活動場所の提供や活動援助金を助成する。

「アクアサークル」が引き続き活動予定である。

3. オープンキャンパスへの取組

今年度は、名称をオープンキャンパスと改め、学生募集を図る為に、実施方法を抜本的に見直し取り組んでいきたい。

実践力のある医療人として育てるための一つとして、「判断能力に優れた医療人」という事が上げられる。自分たちの力で考え、実践できるというプロセスにおいて判断能力が養われていく。その中の一つに在校生が企画・運営しているオープンキャンパスへの取組がある。実施方法の見直しに応じた企画・運営で取り組みたい

4. 学生生活への支援

学生の生活への支援は、学生生活を充実させるためのもので、それによって教育的な効果や人間的な成長を促す一助としたい。

①学生相談室におけるカウンセリングの充実

臨床心理士の先生にカウンセリングを依頼し、悩みをかかえている学生たちが気軽に相談できる学生相談室を実施していく。若干回数を増加させ、待機学生を減らしたい

②日本学生支援機構奨学金や専門実践教育訓練給付制度の奨学金における事務手続のとりあつかい、また学生の様々な発行手続きにおいて、親切で丁寧な対応を行いたい。

③アメニティの段階的な向上

学校内のアメニティを順次更新している。学生が生活しやすい環境づくりをしたい。

5. 学生募集計画

①入学試験の変更

2025 年度生募集において、18 歳人口の減少により減ったと思われる昨年よりも減少した。全学科で定員の確保が非常に難しい状況である。

看護学科三年課程においては、試験回数を増やしたい。AO入学試験の早期実施と後期も追加し回数を増やしたい。臨床検査学科もAO入試を後期に追加する。

臨床工学技士専攻科は内部推薦を増やしたい。内部推薦の試験科目を書類選考のみとし受験しやすくしたい。

②オープンキャンパス

a. 今年度より、オープンキャンパスと名称変更し実施する。

1. 2 年対象イベントとして職業理解、分野理解のイベントを実施する。3 年生対象として、受験に向けた対策講座等を企画する。受験直前にはAO 対策についての、オープンキャンパスを

企画する。高校の1年生から3年生までの期間、LINE等で繋がり継続的な参加を促したい。
早期化＋長期化を意識して計画したい。

土曜日設定を基本として、本年度は日曜日も計画する。大学卒業後に専門学校への進学を希望する人や、社会人として働いたのち専門学校へ進学を希望する人達も対象に、午後6時開始の設定も行う。

b. 学校訪問

京都・滋賀の高校訪問を継続する。近郊の高校へも、教員だけでなく事務広報担当者と共に高校訪問を実施したい。

c. 臨床検査学科の学生募集活動

本校臨床工学技士専攻科への進学による、ダブルライセンスの取得と、畿央大学・臨床細胞学別科の指定校である本校より進学する事により、細胞検査士の資格取得も可能であることを特徴に本校が選ばれるよう、募集活動を実施したい

d. 臨床工学技士専攻科の学生募集活動

崇城大学との連携校入学試験では、2025年度生は10人の入学生が決まっている。指定校からの受験生確保や臨床検査技師専門学校への説明会などを実施していく。

内部進学者の確保として、今年度より入学試験の試験科目を書類選考のみとし、実施回数を後期に増やし実施する。定員確保を目指していく。

e. WEBサイトを使った広告

情報サイト広告業者を増やし、インターネットで検索できる機会を増やしたい。また精査した内容で実行したい。HPの迅速な更新や、インスタグラムやLINE等を活用するなど幅広い広告活動を新たに実行したい。

6. 学生への啓発運動

①危険ドラッグ乱用防止

危険ドラッグ防止啓発運動について京都府より防止指導員の推薦や学生啓発リーダーなどを推薦する。また、上京警察署より学生向け講義のDVDを借り、新生活をスタートする1年生に視聴させ、危険ドラッグ防止の取組を行う。

②年金セミナーの開催

若い世代に年金の正しい知識に触れることで公的年金制度を身近で重要なものである、と知る機会としたい。また金融リテラシーを身につけることにもつながるよう、年金セミナーの開催を計画したい。

7. 地域への貢献

地域社会に情報を発信したり、地域社会への貢献を広めたりすることで、学校の知名度を上げ、学生募集につなげたい。市民公開講座の計画を立て実行する。